



今年も校内原爆写真展を開催

高田中学校は二年生全員が感想文寄せる



長崎市立横尾中学校



長与町立高田中学校

「原爆の日」も過ぎ、やっと一段落した写真資料調査部会今年も忙しい日々でした。恒例となった中学校での「ナガサキ原爆写真展」、ことしは長崎市の長崎市立横尾中学校と長与町立高田中学校の二か所で開催しました。特に高田中学校では二年生全員が写真展の感想文を寄贈。

女子生徒の川崎里奈さんは、「自分がもし戦争中に生まれていたら、私もこの中にいたのだと思うととてもこわくなりました。原爆で亡くなった人の中には、小さな子どもや私と同じ年齢の子がいたと思います。その子どもたちは学校に行くことも、勉強することもできなかつたと思います。今の私たちはとても幸せなんだなあと思います。戦争は二度とないように、私たち一人一人が戦争の恐ろしさを知ることが大切だと思いました。」と記しました。

昨年は長崎市立滑石中学校の1校だけでしたが、今年はい切って二校に増やしました

横尾中学校での原爆写真展

六月二十八日から七月二日までのおよそ一週間開催した長崎市長崎立横尾中学校。この学校は平和活動に熱心で、今年一月、長崎県美術館で開催された「キッズ・ゲルニカ展」に「平和の実る樹」の大作を出品したことも話題になりました。会場は本館と特別教室を結ぶ渡り廊下、ここに写真およそ四十点を展示しました。今年四月、時津中学校から横尾中学校へと転任された米井秀和校長は、昨年、時津町役場で開催した写真資料調査部会の写真展をご覧になられたそうで、このことから生徒たちにもぜひ見せたいと写真展開催を快諾されました。



2010/06/11

高田中学校での原爆写真展



「福田須磨子」展示コーナー

高田中学校も写真展開催を快く受け入れてくださり、横尾中に引き続き七月五日から十六日までのおよそ二週間開催しました。この生徒たちは直ぐ近くにある高田小学校卒業生たちが大半を占めています。その高田小学校は長崎原爆と深い関わりがあるので、原爆が投下された昭和二十年当時、この学校は長与国民学校高田分校の時代でした。この分校に原爆投下の翌日から避難したのが長崎原爆文学で有名な故・福田須磨子です。このことから高田中写真展では

須磨子さんの実姉・豊後レイコさんの協力を得て「福田須磨子コーナー」を設けました。原爆を憎み通し壮絶な生き様でその生涯を終えた福田須磨子、このコーナーには代表的著書「われなお生きてあり」をはじめ、著書に書き残された原爆当時の高田分校での様子や関連する写真、特に浜口町時代の須磨子の実家、青果店の写真等も展示することが出来ました。生徒たちや、訪れた父兄の方々も初めてご覧になった人が多かったようで好評、なかなか口を開こうとしない中学生たちの素直な感想を聞いたのは大収穫でした。

それぞれの中学校では各々、その校区内の原爆投下当時の様子をパネルで紹介しました。地元の人にとっては身近な地名を取り上げ説明したことで、より身近な原爆写真展となったようです。

中学生が書いた感想文を読むと、中学生たちも原爆のこと、平和のことについて



非常に関心を持っていただけると感じられます。この素直な気持ちや、なんとか継続させ、少しでも実現できる行動をサポートすることができたらと思います。なおNBCテレビがニュース番組「報道センターNBC」で、部会長の深堀好敏さんを中心に、高田中学校での写真展の様子を含め、写真資料調査部会の活躍の様子を長時間紹介しました。

感想文(高田中学二年生より)

今井英里奈

私が一番印象に残ったのは「浦上天主堂」の写真でした。すごく身近にある建物で、今はあんなにきれいなのに、昔、原爆であんなにボロボロになったなんて想像もつきませんでした。そんな建物も一瞬にして、あそこまで破壊してしまうということは、すごい力があるものだと思いが知らされました。

織田和希

「ナガサキ原爆写真展」を見て、自分たちが今、生活している高田中学校周辺の、原爆が落とされたときの様々な様子がよく分かることが出来ました。今も昔も変わっていないように見えるJR道ノ尾駅は、その時、救護所に使用され、多くの被爆者が詰め掛けてきたということを初めて知りました。自分たちは関係ない、とは思わず、今後もし剣に考えていくことが大事だと思えました。

木田ほのか

今まで見たことがない写真がたくさんありました。一番印象に残っているのは赤ちゃんが大火傷をしている写真です。なぜかという自分の弟やいとこが小さいからです。もし自分が原爆の被害にあつたとして、弟やいとこが大火傷を負うとしたら、とても苦しく、とても悲しいと思います。原爆のこわさを知ったし今後、使用されないように考えたいと思います。

鈴鹿秀美

米軍が原子爆弾を積んでいる写真がありました。どうしてこんなことができるんだろうと、とても悲しくなりました。赤ちゃんが血まみれになつて手当てを受けている写真を見た時は胸がとても苦しくなりました。もうこんなことは起こしたくないです。そのため私たちが大人になつたとき、子どもたちに色々なことを伝えていき、世界中が平和になつてほしいです。

矢口美乃里

長崎原爆ファットマンの写真がありました。あの原爆が落ちただけで、あの爆弾一つだけで一瞬にしてすべてがなくなると思うと、本当にこわくなりました。どの写真も目をそらしたくなりましたが、私たちは、次々に戦争のおそろしさを伝えていきたいと思っています。

豊村凌太郎

道ノ尾駅に原爆で傷ついた人たちがたくさん集まってきて治療を受けたということは知りませんでした。そしてそのけがをした人たちには食用油をぬることしかできなかったということも知りませんでした。今、自分が住んでいる西高田も原爆の爆風の被害にあったことも知りませんでしたので、もつと原爆の事について知らなければと思います。原爆は何一つ良い事はない、すべてのものを無差別に奪っていく、この世にはいないものです。しかしこの原爆は世界には何発もあります

それを使わず、作らせず、減けが人にはハエが飛んだり、らしていくことが、私たちの血が流れていたり、悲惨なも役割だと思い、この長崎からの核兵器の廃絶を広めていきたいです。

野田慎司

写真の中に長与町での原爆被害の写真がありました。見たのは初めてでした。こんな恐ろしい出来事が私たちの身近でもあったことを改めて感じました。今、私たちは勉強したり、腹いっぱいになるまでご飯を食べたり出来ることの幸せ、感謝の気持ちをもつて生活していきたいと思えます。

平塚みなほ

どの写真を見ても見渡す限り焼け野で、焼け死んでいる人がいる写真もあり悲惨なものでした。その中に高田小学校の写真がありました。高田小学校では原爆が落とされた時の学校のことは学びませんでした。原爆が落とされた時、高田小学校にはけがした人たちの手当ての場だったそうで、

古館郁美

とても貴重な写真を見るこ

とが出来ました。私はあまり原爆のことは知らなくて、死者や負傷者の人数も今日ばかりで知りませんでした。とてもありえないほどの人数でした。それと一番印象に残ったのは福田須磨子さんの詩です。何度核を作っている人たちに訴えていました。この原爆のことは私たちが大人になったら子どもたちに伝えなければいけないと私は思いました。

山崎捷子

人や馬の死体とか、建物が無残に写し出されていて、とてもこわくぞくぞくしました。私たちがまだ生まれていない時で、戦争のことはよくわかりませんが原爆写真展を見て、「戦争って、絶対あってはならないことだ」「人間はこ

また被爆者の苦しみや悲しみを、現在の人に伝えて、世界中の人が戦争はしてはいけないという気持ちになって欲しいです。

江口里咲子

戦争中の長崎の様子をテレビやアニメで見るという経験は今までもしましたが、実際の写真等を見ることはあまりありませんでした。今回、実際の写真を見せていただき、ものすごく実感がわいてきて、苦しみを改めて感じました。小さな赤ちゃんが黒こげになってるのを見ると、「今から人生はスタートするのに」と、ジーンときてしまいました。

木戸香澄

写真を見ると、人の焼け焦げたあとのようなものや、ロボロに破壊された建物など、思わず目を伏せてしまうような写真もありました。これらの写真は、消してはいけない過去でもあるし、戦争の過ちを繰り返さないためにもしっかりと受け止めて見まし

た。戦争はたくさんの人々の生命を奪い、地球を破壊し、心にも深く傷をつける残酷なものだと感じさせられました。これからの子どもたちにも、日本や世界が犯した過ちを伝えるために、たくさんの人にこの写真展を見てほしいと思います。

中村圭佑

写真展を見て、原爆で多くの生命がなくなった意味を無言で伝えてくれました。ぼくが一番、心に残った写真は、あの空から写した長崎の街の写真です。建物がなくなっていました。その時、悲しみがありました。だから戦争だどわかりました。あのような世界を、未来に残してはいけない、写真を見てそういう思いを心の中にしまいこみました。高田中学校でナガサキ原爆写真展を開いてくれてほんとうにありがとうございます。



西村和人

写真展を見て戦争の悲惨さを改めて思い知らされました。そして僕は人間や動物の死体を見て、「戦争は何か得があるのだろうか」と思いました。人間や動物の命を奪い、国民を犠牲にしてまで領土を奪おうとする国の、偉い人を、僕は正直「ばかものじゃー」と思っていました。そして僕たちはそのあやまちを二度とくりかえさないようにしなければいけないと思いました。

本山俊介

毎年七月に入ると平和学習があり、その度に戦争の恐ろしさを感じていました。今年も校内でナガサキ原爆写真展が開かれ、原爆投下後の生々しい写真を見て、より一層、戦争の恐ろしさを知りました。僕はこのような写真を長崎原爆資料館でしか見たことがなかったのですが、まさか学校の平和教育で貴重な写真を見ることができるとは思いませんでした。本当にありがとうございました。

金井香

写真展を見てはじめて思ったのは「驚き」です。なぜなら自分はお祖父ちゃん、お祖母ちゃんから話を聞いていました。想像を超える悲しい光景ばかりだったからです。ほんとうに真っ黒に焦げてしまった人。苦しそうな表情の子どもたち、すべてが原爆の恐ろしさを物語っていました。もうあんなことはないようにしたいです。

元尾春月

私が一番印象に残ったのは福田須磨子さんが書いた詩です。その詩は原爆を作る人たちに訴える長い詩でしたが、すごく心に響きました。私はこういう写真を見るのは苦手で夢に出てきそうです。でも私たち世代の人たちが知り、次の世代に伝えなければと思います。

森幸穂

写真展を見て笑顔など出てこなかった。言葉も出てこなかった。見るのがつらくなりました。原爆が落とされた

跡の長崎の街は、「ほんとうにこれが長崎？」と思うくらいに悲惨だった。たくさんのお人が苦しんでいて、心が痛い。二度とこんな目にあわないうような世の中になつて欲しい。そしていつまでも平和であつて欲しい。

山田佳穂

原爆写真展を見て、そのときの様子が分かるというのは難しいけど、大体どんな感じだったか分かりました。以前、お祖母ちゃんが戦争の話をしてくれた時、あまりはつきりとした想像ができなかったけど、学校で開かれた写真展の写真を見てくれたのかと思うとお祖母ちゃんはずいぶん体験をしたことがよく分かりました。この体験をもう誰もすることがないようにしたいと思います。

今月の一枚

「平和の実る樹」横尾中学校生徒作品



原子雲、人を焼き尽くす炎、11時02分で止まった時計。悲惨な過去から現在、そして実りある未来へと…人間の罪を反省し、平和を希求する思いをぶつけた。

制作：横尾中学校総合学習『ピース・アクション』生徒 21人

今年1月に長崎県美術館で開催された国際子ども平和壁画展「キッズ・ゲルニカ IN ながさき」展に出展した2008年度作品。絵画の大きさは、ピカソの「ゲルニカ」と同じ縦3.5m、横7.8mの巨大な作品。